



TITLE:

通信

AUTHOR(S):

CITATION:

通信. 天界 1928, 8(86): 246-246

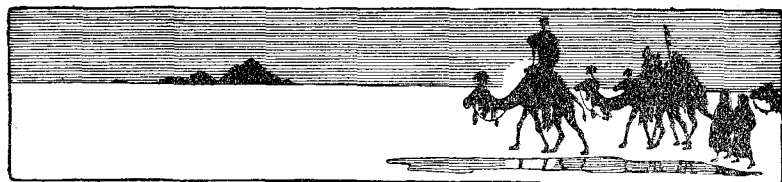
ISSUE DATE:

1928-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161270>

RIGHT:



通 信

山本先生！前に一度御手紙を書きかけて中止してしまいました。十一月號に先生の御父上様がおなくなられたことが出て居りましたのにお悔みの言葉ものべずに居ったことが、氣掛りでありました。ハルピンで急死した親族の葬式は十一月の大半をつぶしてしまいました。それでお悔みの言葉をのべる機会がなくてほんさうにお詫びの申しようもございません。十二月三日、私には忘れ得ぬ日です。午後三時四十分には父は自宅にて腦溢血のため倒れました。其間まる十日間、あるさあらゆる手當を講じ、特に従姉Y子と私は、殆ど一睡もせず看護に看護を盡しましたが、十三日、午後四時四十分、遠い遠い國へ、廿四の私と四十九の母と唯二人を残して逝いてしまいました。家族の少い私の家はほんさうに淋しく成りました。一月一日には、十二月號天界を始めて開いてみました。先生の「我が夕の追憶」と云ふ文を感激深くよみました。一月十三日には、支部並に天文關係の素人たちが二十人程よつて亡き父のために追悼會をして頂き、非常に暖い心に泣されました。其の日は、先生からわざわざ、なぐさめの電報を頂き深く深く感謝致します。此の追悼會の夜は、西天にかなり美しい黄道光があらはれて居りました。その夜私は次の様な歌を詠んでみました。

黄 道 光

西空に黄道光のかゝれけりこよひは父をしのぶによしか
 星のさもよりよれるかな我が父の追憶の夜は星月夜なり。
 父君の手にて擴げむ此の夜空黄道光を仰ぎみしわれ。
 おごそかに父君のごさ木星は黄道光に含まれてしな。
 母と孤を慰さめけむとつごひたるさもの心のあたゝきかも。
 追憶はうれしきものかよろこびを母もわかつてりて此のつごひにて。
 此の様な歌も作つてみました

北の風いたくなく吹きそ石狩野雪わけて行く父の柩は。
 父君の御國訪づる其の日まで此の悲しみは盡きせざるらむ。
 春來なば父の奥津城訪れむ鳥根なる國母とし行かむ。

一月廿三日夜

父亡き家にて

米 田 勝 彦